



〔海の状況(2/16~3/15)〕

- ・ 神子地先の表面水温… 期間を通して、平年よりはなはだ低め(平年差-2.0~-1.5℃) から平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。(図1)
- ・ 米ノ地先の表面水温… 期間を通して、平年よりかなり低め(平年差-1.5~-1.0℃) から平年並み(平年差±0.5℃)で推移した。(図2)

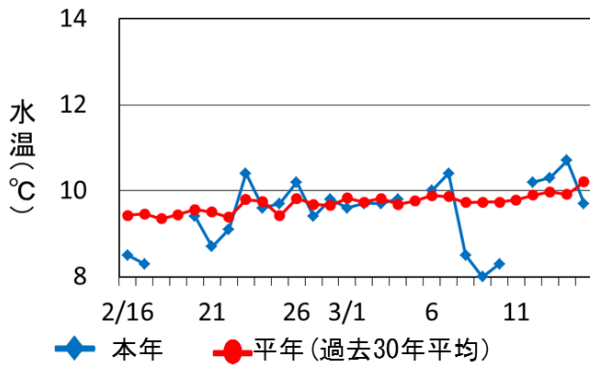


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

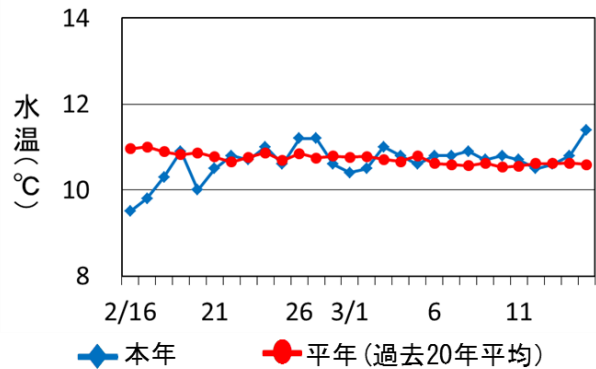


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況:2月〕

2月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)において、若狭湾の一部が10~12℃と前年より低くなっていた。また、水深100mにおいて、山陰・若狭沖冷水は若狭湾沖では勢力は前年より大きく、やや接岸していた。(図3)

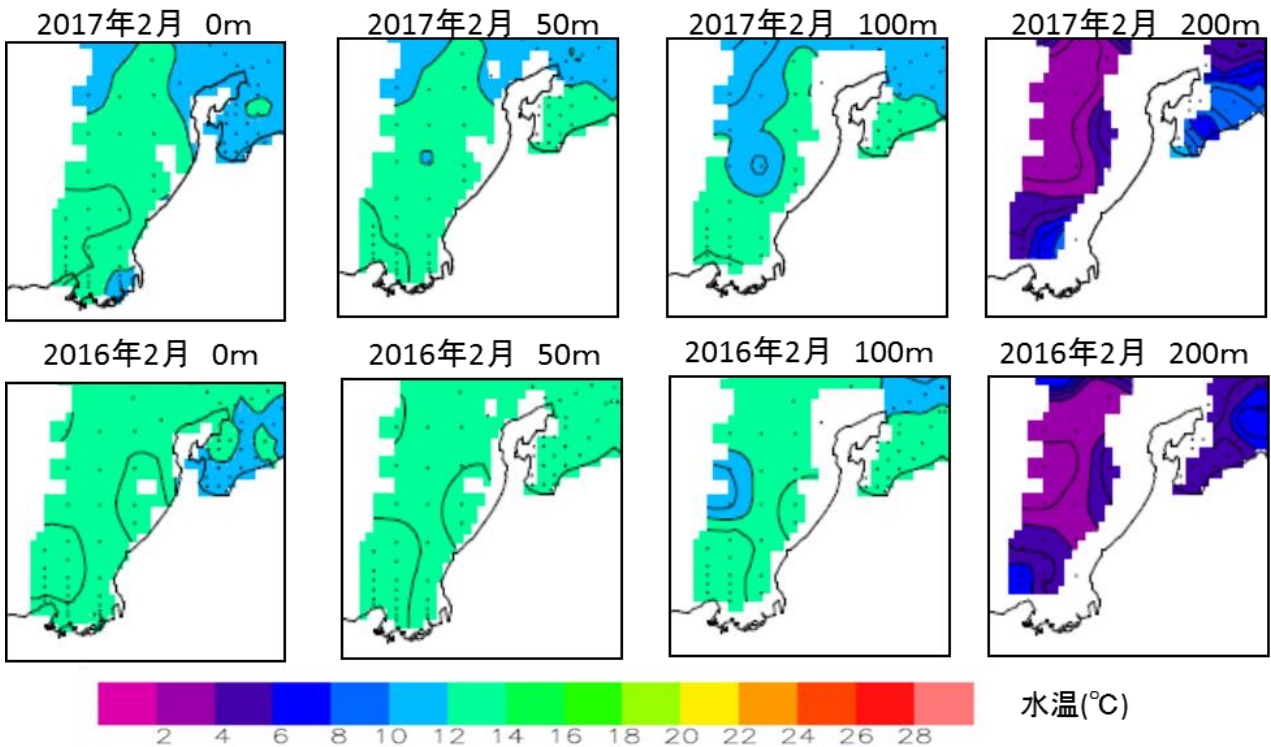


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図(日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

〔県内の漁模様：2月〕

2017年2月の県内の総漁獲量は407tで、昨年同月を167t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は48tで、昨年同月を30t下回った。マグロ類、スズキ、ケンサキイカ等は昨年同月を上回り、アジ類、ブリ類、サワラ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は315tで、昨年同月を90t下回った。キダイ、ヒラメ等は昨年同月を上回り、アカガレイ、ハタハタ、ズワイガニ〔オス〕等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は44tで、昨年同月を48t下回った。ハマチ銘柄、スズキは昨年同月を上回り、サワラ、キダイ、スルメイカ等は昨年同月を下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(2月)

定置網	(kg)				
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
アジ類	3,397	15,234	20,206	-11,837	-16,809
サバ類	27	3,810	2,025	-3,782	-1,998
マグロ類	3,335	240	1,208	3,095	2,127
ブリ類	740	1,743	6,005	-1,003	-5,265
(ブリ)	68	42	390	26	-322
(ワラサ)	401	1,320	205	-919	196
(ハマチ)	265	348	822	-84	-557
(ツバス)	6	32	4,588	-26	-4,583
サワラ	21,332	39,912	39,103	-18,580	-17,770
サケ、マス	104	357	275	-253	-171
マダイ	114	374	178	-260	-64
スズキ	4,140	2,183	3,623	1,956	516
ヒラメ	369	361	314	8	55
フグ類	613	480	919	133	-307
メバル類	269	171	192	98	77
ケンサキイカ	993	42	142	952	851
ヤリイカ	4,851	5,509	5,322	-658	-470
その他イカ	632	141	131	491	501
その他	7,276	7,233	6,599	43	677
合計	48,192	77,789	86,243	-29,596	-38,051

底びき網					
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
マダイ	270	171	360	99	-90
キダイ	463	248	417	215	46
スズキ	563	1,752	1,040	-1,189	-477
ヒラメ	2,626	2,353	2,013	273	613
アカガレイ	172,469	205,067	221,701	-32,598	-49,231
その他カレイ	24,173	29,315	25,779	-5,142	-1,606
アナゴ	408	1,289	1,601	-881	-1,193
ハタハタ	15,219	55,095	76,642	-39,875	-61,423

底びき網の続き					
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
メバル類	281	266	342	15	-61
ヤリイカ	268	262	284	6	-16
タコ類	2,535	5,464	5,047	-2,929	-2,512
ズワイガニ〔オス〕	25,290	31,956	37,241	-6,666	-11,950
水ガニ	40,481	41,691	51,997	-1,210	-11,516
アカエビ	1,440	1,481	7,661	-41	-6,221
その他エビ	5,245	5,338	5,274	-94	-29
その他	23,207	22,726	26,282	482	-3,074
合計	314,938	404,474	463,682	-89,536	-148,744

釣り、延縄、さし網、その他の漁法					
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
ハマチ	1,894	5	3,240	1,889	-1,346
ツバス	1,223	1,541	3,278	-318	-2,055
サワラ	438	18,152	1,984	-17,714	-1,546
マダイ	408	877	1,303	-469	-895
キダイ	1,375	3,075	2,041	-1,700	-666
アマダイ	1,848	2,793	3,166	-945	-1,317
スズキ	760	280	624	480	136
ヒラメ	1,051	1,219	2,682	-169	-1,631
その他カレイ	3,807	4,607	8,002	-800	-4,195
メバル類	2,924	3,446	4,680	-521	-1,755
スルメイカ	2	5,154	10,359	-5,152	-10,357
ヤリイカ	1,759	3,270	4,934	-1,511	-3,174
タコ類	4,502	6,513	7,001	-2,010	-2,498
その他	21,903	40,902	53,713	-18,999	-31,809
合計	43,894	91,834	107,006	-47,939	-63,112

全漁法					
魚種名	2017年	2016年	平年	前年差	平年差
全魚種合計	407,025	574,096	656,931	-167,072	-249,906

※1 平年の値は2007-2016年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。 ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

漁獲状況…石川県：2月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：2月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。
 兵庫県：2/1-2/28の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：2月中旬～3月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。
 石川県…定置網…スルメイカ2.7t、ブリ2.5t、マアジ1.4t、マサバ1.3t、メジ0.5t、サワラ類0.5t
 京都府…定置網…カタクチイワシ5.4t、サワラ類1.7t、マグロ類1.6t、スズキ0.2t、マアジ0.1t
 兵庫県…定置網…マアジ316kg、スズキ83kg、ヤリイカ40kg、サワラ25kg、ハマチ20kg
 鳥取県…まき網…マサバ68.6t、マアジ11.8t、マイワシ11.1t、ウルメイワシ2.8t、ブリ類2.7t、カタクチイワシ0.7t

「水試だより」についてご意見・ご要望をお聞かせください

「水試だより」は、前身である「浜へのたより」から引き続いて、県内外の漁獲状況や水温などの漁海況情報のほか、水産試験場で行っている試験研究の内容や成果などについて漁業関係者をはじめとした読者の皆様にお知らせしております。

今後、よりわかりやすく有意義な情報誌になるように、内容や構成を検討・改良していきたいと考えております。そこで、本誌に関してご意見・ご要望がございましたら、担当までご連絡いただくと幸いです。

よろしく願いいたします。

担当：水産試験場 海洋研究部 漁場環境グループ 山下 慎也

TEL：0770-26-1331 FAX：0770-26-1379 E-mail：suisi@pref.fukui.lg.jp

2016年のブリの漁獲状況

【初めに】

福井県においてブリは主要魚種の1つであり、主に定置網によって漁獲されています。

ブリは大きさによって呼び名が違い、福井県では小さい順から、アオコ、ツバス(フクラギ)、ハマチ、ワラサ、ブリと呼ばれています。

【2016年の漁況の概要】

2016年は4~8月と10月の漁獲量が多くなっており、最も多いのは5月でした。最も多く漁獲された銘柄はツバス銘柄であり、全体の5割を占めました。

2016年のブリの漁獲量は2,223tであり例年(過去10年平均)の漁獲量の1.2倍でした。

例年のブリの漁獲量は、5月をピークとして、以降は徐々に減少していますが、2016年は4、7、8、10月の漁獲も好調で、特に10月は例年の3倍の漁獲量となりました。(図1)

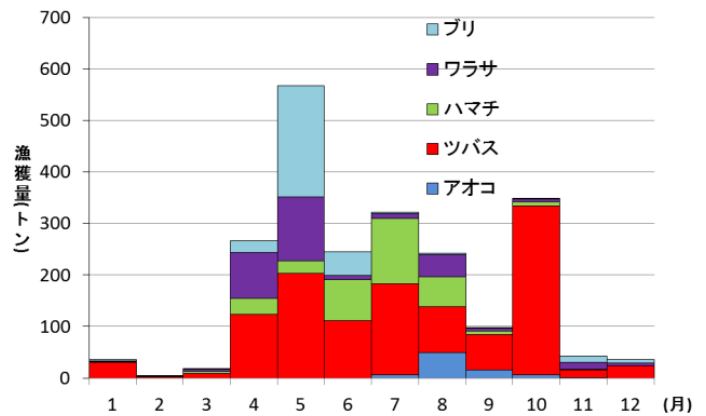


図1 2016年ブリ漁獲量(月別 銘柄別)

【2016年の漁況の特徴】

2016年の5月は、例年に比べ、高齢魚(ブリ、ワラサ銘柄)の漁獲割合が多くなっています。これは、2014年の若齢魚(ツバス銘柄)の資源量が多く、これらが成長し漁獲されたためではないかと考えられます。(図2)

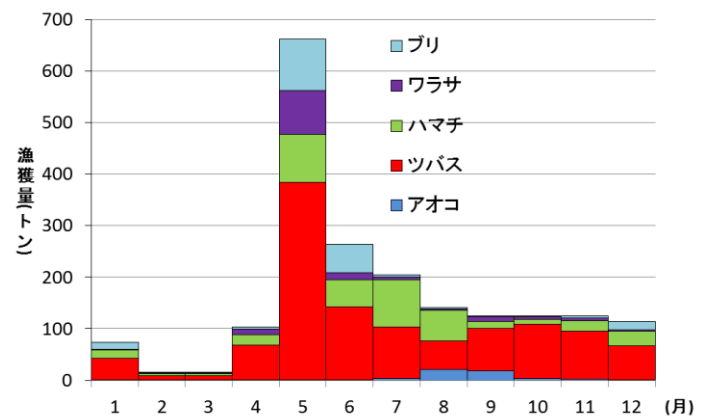


図2 過去10年平均ブリ漁獲量(月別 銘柄別)

【最後に】

2014年は1992年以降最高の漁獲量を記録しました。(図3)

ブリの資源量は数十年周期で増減を繰り返すことが知られており、近年は増加期ですが、今後減少に転じる時が来ると予想されています。2015年及び2016年は前年の漁獲量を下回っており、すでに減少期に突入している可能性もあります。

また、ブリの資源量変動の要因の一つとして水温が関連しているということが知られています。

そのため、ブリの漁獲量と水温の変動に注視し、今後の漁獲量の増減を見極めて漁業者の方々に情報を提供していけるよう努力していきたいと思えます。

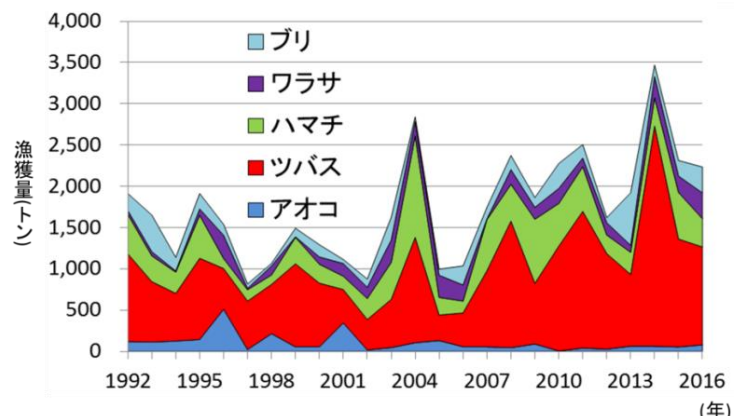


図3 ブリ漁獲量(銘柄別)